

1班(人づくりの視点)

■ 総合的な意見

- ・行政が「支援する」とは具体的にどうすることか。
- ・現状として「不足」しているのではなく、よい活動は市域にたくさんある。それがまだ知られていない、あるいは広まっていないということ。課題として設定するのであればそれは「不足」ではなく「拡充」、「充実」という方が正しい。

■ 学習機会の創造

- ・イオンにも教室があり、その違いを出すことも必要。
- ・安価な値段の設定。
- ・女性の利用が多く、男性の参加が課題。
- ・子どもが夏休みを使って行う講座も。
- ・自主講座の魅力を高める。
- ・加西市ならではの講座。
- ・4公民館共通の講座も必要。
- ・講座の楽しさ、良さは講師によって左右される。
- ・よく知っている人、よく活動する人が地域にいる。そんな人に講師として話してもらう。
- ・文化財の活動はすでにやっていることが多い。さらに充実させることを書く必要がある。
- ・地域内のふれあいの機会を調査すること。
- ・伝統や良さを発見し、調査紙にまとめ、ひろめること。

■ 青少年活動

- ・「課題」は自然体験、生活体験の「不足」ではなく、「充実させること」。
- ・環境体験事業、校外に出たのボランティア活動などすでにやっていることも多い。ただ、やり出したところで、中身が充実していない。
- ・青少年健全育成や防犯などすでにある地域の様々な団体同士の連携が必要。

■ スポーツ

- ・スポーツ21が富合地区ではなくなる。
- ・運営費等資金が続かない。
- ・3世代交流するにはグランドゴルフがとてもよい。
- ・ゲートボールはゲームが難しい。親睦には適さない。
- ・スポーツクラブ同士の交流も必要。
- ・アクアス加西の中を歩く人が多い。車が走らず安心して散歩できるコース。

- ・時間を決めた照明の設置が必要。
- ・「支援する」とはどこまでをするのか。
- ・校庭や体育館の開放、各施設の整備、競技やレクリエーションの企画。

■ 出合いを求める若者の支援

- ・市は場の提供、場づくり。
- ・企業同士の交流を進める 職域や会社同士での交流 よい効果に。

■ 特色ある教育

- ・職員の研修が大事。
- ・学校の先生には子どもに対する大きな影響力がある。
- ・子どもにふるさとの良さを学ぶ機会を与えているが、先生自身も加西の環境、歴史について学ぶこと。知らなければ子どもに教えることができない。
- ・教育委員会全体で、加西市を学ぶ指導を。

■ 開かれた学校づくり

- ・現場を知らない設計はない。現場は発明の倉庫である。現場を知ることが必要。
- ・総合学習の水平展開を。 授業の情報が各学校に行き渡っていない。
- ・総合学習は各学校同士でうまくつなげる。
- ・人とモノの掘り起こし
- ・地域のサブテクニストの活用

2班(産業の視点)

■ 総合的な意見

- ・何が重要なかわからない。
- ・インパクトに欠ける。
- ・加西オリジナルがない。
- ・まちを活性化するために、まずは税収を増やすことが重要。地元でお金を落とす必要があり、地元でお金がまわる仕組みをつくる必要がある。

■ 農業

- ・いざ農業をやりたいと思ってもどういう手順をふんでいいかわからないし、窓口的なものがないので、すぐに始められる雰囲気をつくってほしい。
- ・加西ブランドを作って、赤字から脱却を図る必要がある。

- ・市が農業に対して何ができるのか。課題に対して行政が責任をもってできることをしないといけない。

■ 産業

- ・医療や福祉は、やってあたり前だと思うので、もっと色々なところで知恵を絞る必要がある。
- ・イオンという大きいショッピングセンターがあるのだから、その集客を増やすような取り組みを行い、地元の商店街にも人が流れる仕組みをつくるべき。(市もアイデアを出すべき)
- ・旧商店街活性化のため、ラーメン店街、屋台などつくればよいのではないか。
- ・既存の企業を大事にする必要がある。入札においてもできるだけ地元の企業にする等。

■ 観光

- ・いい素材はたくさんあるが、まちづくり協会等、ボランティア団体では限界がある。
- ・観光協会で把握できていないところもあるので、観光に係る部分を一本化して、アクションを起こしやすくするべき。
- ・観光は福祉の施策に比べ、地元にお金を落とす可能性のある施策なので、できるところから手をつけるべき。
- ・道の駅をつくれればよい。そこで観光客がお土産などを手にとることによって加西では何が有名なのかということを知ってもらうきっかけにもなる。
- ・インフラの整備が必要。最低限トイレ、食事をするところがあれば、集客を狙える。
- ・加西では観光の発信源がないと思う。加西を訪れた方にマップなど、どんな観光資源があるのかをわかるようにする必要がある。

3班(暮らし)

■ 総合的な意見

- ・テストなら100点満点がもらえるくらいすばらしい文章。いかに実行していくかが課題。
- ・表現が具体性に欠ける。
- ・本当に予算の範囲内で行えるのか。

■ いきがいづくり

- ・「誰もが最期まで元気に暮らせる健康づくり」は非常にいい施策名。
- ・「老人」「敬老会」といった言葉に抵抗を持つ人が多い。(特に60歳代)
- ・いきがいづくりのためには「居場所」が必要。独居の人でも話し相手がいれば元気になる。
- ・自治会や民生委員だけでなく、高齢者自身も自ら頑張らないといけない。
- ・「障がい者」という表記ではなく、「障がいをもつ方」とすべき。

- ・「サロン事業」「コミュニティビジネス」に注釈を。
- ・地区にもよるが、いきいき委員会、はつらつ委員会の活動が縮小している。継続していくことが必要。

■ ころとからだの健康

- ・「台所は命の薬局」と昔から言われている。食はひとつくりにおいて根源となる。
- ・料理を通じて親子の対話生まれる。→「料理を作らない家庭は崩壊する」
- ・給食導入によって親子の対話の機会が減るため、以前は中学校の給食導入には反対だった。しかし、最近はお弁当をレンジで作る（冷凍食品ばかり使う）親が多く、お弁当作りが親子の対話のきっかけになっていない。女子生徒は体重を気にして小さなお弁当しか持ってこず、体力が持たない。成長期の生徒の体力維持のためにも中学校に給食を導入すべき。
- ・包丁を一切使わずに料理をする家庭があると聞く。ハサミで切るだけやレンジで温めるだけではいけない。住民の取り組みに「包丁を使って料理しましょう」という一文を。
- ・健診率向上のためには、少なくとも中学校区ごと、できれば小学校区ごとにまちぐるみ健診の会場を。
- ・健診だけでなく、介護予防などの活動は出来るだけ小単位で行うべき。
- ・ストレスをためないで笑って過ごすことが重要。
- ・「一笑一若（常に笑っていれば若返る）」、「一怒一老（怒ってばかりだと老けていく）」を心がけよう。

■ 地域医療

- ・病気をせずに、最後まで元気に暮らすのは皆の願い。そのためにも自分で自分のことをケアしないと行けない。
- ・洋式トイレの普及により、足腰が弱くなったり、膝関節症になる人が増えている。普段から足腰を鍛えないと行けない。
- ・携帯メールの予測変換機能が充実してきて、考える力が衰えてきている。日常的に手で書く習慣を。

■ 地域で支え合う

- ・「障がい者」→「障がいをもつ方」
- ・地域包括支援センターの認知度が低い。言葉として難しいのが認知度の低さの原因では。
- ・行政の取組「認知症の予防や早期発見のための対策を推進する」は、理想論であり具体性に欠ける。具体的な例示を。
- ・高齢者等の見守りは、民生委員や区長に任せきりで負担が重く、民生委員や区長のなり手がいない。地域みなで支え合うことが重要。

4班(環境)

■ 自然との共生

- ・今の田は水路と田との高低差が激しく、生物が行き来できない。
- ・桑原田で魚道を設置する取り組みが始まった。
- ・有害鳥獣対策は組織を作って進める必要がある。
- ・里地里山の継承を推進するためには行政に関わる必要がある。

■ 加西の特色ある景観

- ・アドプトプログラムの導入に関して、住民の同意を前提として緑地等を設置しなければならない。協力体制が必要である。

■ 創エネ・蓄エネ・省エネ

- ・二酸化炭素排出権取引を市が課題設定するのは時期尚早ではないか。今後の検討課題ではある。
- ・企業における ISO やエコアクション 21 の取得件数を目標指標に設定してはどうか。

■ 上下水道水

- ・住民の取り組みとして雨水の利活用、再利用に努めるべきである。

■ ゴミ減量化と資源循環の推進

- ・何でもリサイクルすれば良いというわけでもないと思う。リサイクルをすることで、その過程で返ってエネルギー消費量が増加することもあるのではないかと。行政が指針等を示す必要がある。
- ・廃棄物のマテリアル利用等については、その需要の創出や流通ルートの確立をしなければならない。

■ 環境学習

- ・中高生に対する講演をする機会がある。現在も環境教育はしている。
- ・実際の取り組みに中高生を参加させる取り組みが必要である。
- ・子どもの環境学習に親も一緒に参加するべきである。

5班(パートナーシップ・行財政)

■ 全体

- ・各ページに記載されている「課題」がどのような背景から出されているのかがわからない。
- ・ここに記載するまでもなく、一般的に言われている課題のように思える。
- ・目標指標の設定については、課題に対応した指標を入れていくべきではないか。課題と目標指標がリンクするように設定してほしい。
- ・基本的な現状を把握した上で、計画を立てていくべきだと思う。
- ・限界集落に対しての政策がとられていないと思う。県下の限界集落の数など、状況を公表しなければ、自分達の集落の状況を把握することができない。
- ・人口が減少している地域がある分、増加している地域もあるため、市街地だけの取り組みを行っても、市全体としては良くなっていかないと思う。
- ・農家の状況が悪くなっていることに対応していく必要がある。
- ・人口と農業や都市計画等の基盤をしっかりとしていかなければ、計画としての根底が成り立っていかないと思う。
- ・農業高校があっても、地元で農家として就職する学生は少ない。所得の問題などがある。
- ・生産から加工、販売までを一貫して視野に入れた取り組みを考えていくことが必要。
- ・地産地消で、無農薬など手のかかった野菜などはおいしいとはわかっているけど、値段が高いためあまり買ってもらえない。昔は加西市でもよい農産物を作る技術があったのに、それも今では廃れてしまった。
- ・三洋の米粉でパンを作る機械を活用すれば、余ったお米を活用するなどができるのでは。

■ 住民参加

- ・課題の「地域におけるまちづくり意識の醸成」が重複記載されているので削除。
- ・住民参加のまちづくりについては、あるものに参加すればよいと言うだけのイメージになってしまうので、「参画」という言葉にし、自分達で作るところから考え、試行錯誤していくという意味を持たせたほうがよいと思う。
- ・各取り組みについて、はじめは行政から支援してもらっていても、やり方がわかってきたら、自分達で自立して運営していけるようになっていくべき。しかし、全てを住民に任せてしまうというわけではなく、行政とうまく協働していくことが必要であると思う。
- ・ボランティアの参加促進に関して、参加してほしいと呼びかけるだけでは参加してもらいにくい。「ボランティア貯金」など、活動に参加したことが何か別の形で還元されるしくみを作らないと、参加してもらいにくいと思う。
- ・農業の発展のために道の駅を作ることも大切だが、当事者の努力がなければ成功しない。農家が自主的に協力し合って運営していくことができれば、それが本当の住民参加といえるのではないかな。

- ・集まれる場所が少ない。
- 道の駅などを作れば、農家の発展にもつながり、地域のつながりもでき、産業の活性化にもつながっていく。
- ・住民参加のまちづくりは、人材育成、産業の活性化などにもつながっていくという、広い視野で考えることが必要であると思う。

■ 多文化共生

- ・お祭りなどで出店する際、優遇されているのは外国人。逆に日本人が隅に追いやられていることもあるのではないかと。逆差別なのではないか。
- ・外国人の割合が、総人口に対して多い。祭りの時に外国人が出店していた土地代は、行政から補助などが出ているのか。
- ・地域にどんな外国人が住んでいて、どのような仕事をしているのかなどがわからない。日本でお金を稼いで仕送りをしていたり、出稼ぎに来ているだけなのですぐに帰ってしまうことも多い。
- ・外国人との共生については、マイナス面での課題ももう少し取り上げる必要があるのではないかと。

■ 男女共同参画

- ・ピンクリボン活動などを積極的に行っていくべき。
- ・小学校6年生くらいの子どもに、子宮頸がんの予防接種が受けられるように補助金を出すなどの取り組みをしてほしい。
- ・女性の健康のことについてもふれたほうがよいのでは。
- ・行政の取り組みの5番目「男性の家事・育児・介護参加を推進します。」について、男性の育児休暇の推奨についても入れてほしい。

■ その他

- ・第5次加西市総合計画（骨子案）の3ページの基本計画の説明の図では、「背景」「施策の対象」等が入っているのに、基本計画の枠組みには記載されていない。
- ・フラワーセンターの収支を教えてほしい（宇高委員）
- ・土地利用について、「その他」の割合があまりにも多すぎるのではないかと。これらの「その他」の土地をどのように利用していくのかということが明確に記載されていない。まちづくりを考える際には、都市計画を明確にするべきであると思う。

全体発表(概要)

■ 1班 (人づくり)

「支援する」などの言葉も多くあるが、どこまで支援するのかなども問題ではないか。ヒアリングをして、各課の考えが反映されているとのことだが、庁内は人が毎年動いていくのに、数年後の評価を誰がどのように行うのかわからない。

■ 2班 (産業)

絵に描いた餅のように思える。ヒト、カネ、モノが動いていくような施策を考えてほしい。地元の産業を活性化するように住民にも地元を活性化させる意識をもっと持ってほしい。これらの取り組みをできるかどうか、その財源から考えることが必要なのではないか。

■ 3班 (暮らし)

優先的に何をしていくのか、具体的にどのように実践していくのかをもっと明確にしてほしい。人が集まれる場所をもっと作り、健康でストレスのない生活を送れるようなまちにしてほしい。

■ 4班 (環境)

組織化して取り組んでいく必要があると思う。「省エネ・・・」について、取り組みとしては良いと思うが、すぐにできることではないのではないか。「上下水」について、雨水の再利用など、水の循環についても考えていくべき。「ゴミ減量」について、何でもリサイクルすることがよいことではないのではないか。「環境学習」について、中高生など、若い人にも積極的に参加してもらえるようにしていくべき。父兄も一緒に参加してもらえるような機会の創出などもよいと思う。

■ 5班 (パートナーシップ・行財政)

高齢社会の中で、自分達がどうにかしたいと思っても、行政が正確な数字を出してもらわないと、地域としても取り組みを行っていくことができない。

また、「住民参加」という考え方ではなく、「住民参画」に変更し、住民自らが積極的に企画に取り組んでいけるようにする方がよいと思う。